

2019

10月

ゆうひろば

遊通信

第 172 号



アマレヤ劇団によるワークショップ風景
(2019年9月18日、愛生館サロンにて)

特集 #MeToo

#MeToo が残したものとこれから	・・・ 2
他人ごとから「自分ごと」に一詩織さんの事件から見えたもの	・・・ 4
フラワーデモ 一思いを花に託してー	・・・ 6
なぜスタンディングなのか考えてみた	・・・ 7
私が MeToo 運動に感じる違和感	・・・ 8
私と MeToo	・・・ 9
報告 サケ漁はアイヌ民族の基本的な権利である	・・・ 10
寄稿 札幌市民が支える国際芸術活動	・・・ 12
つんどく屋『ザ・ソウル・オブ くず屋』	・・・ 13
寄稿 北海道における夜間中学の今	・・・ 14
報告 「戦争と平和、写真・資料展」に関わって	・・・ 15
報告 アニマルウェルフェアによる畜産革命を	・・・ 16
連載 フィールドワークな日々 (第 79 回)	・・・ 17
連載 きままに俳句 (第 21 回)	・・・ 18
事務局便り ほか	・・・ 19

#MeTooが残したものとこれから

菅原亜都子

#MeToo 運動の経緯

2017年、ハリウッドの著名なプロデューサーが長年にわたり、セクハラをしていた事実が明るみになった。女優のアリッサ・ミラノさんが、Twitterで、同じように性暴力の被害に遭った女性たちに「MeToo」と声を上げることを提案すると、#MeTooは拡散されていった(もともと「MeToo」はアメリカの活動家タラナ・パークさんが2007年に始めたものであり、ミラノさんは結果的にこの運動を拡散することになった)。ミラノさんの呼びかけのリツイートは翌日には約140万回に達し、そこから#MeTooはハリウッドスターなどの有名人のみならず、世界中の一般の人々まで瞬く間に拡がっていった。

当初、日本ではなかなか広まらないように思えたがブロガーのはあちゅうさんの訴えをきっかけに、日本においても#MeToo運動が注目されるようになった。2016年にジャーナリストから性暴力被害に遭った伊藤詩織さんの事件も、日本での運動の広がりを後押しした。そんな中、2018年4月には、テレビ朝日の女性記者からのハラスメント告発により財務事務次官が辞任を表明し、安倍内閣は2018年6月12日にこの方針とともに「セクシュアル・ハラスメントに向けた対策の強化について」

を決定することとなった。

これらの#MeToo運動は、これまでの女性の人権を求める他の運動と同様に多くのバックラッシュがあった。特に日本では、声をあげた女性に対して厳しい批判が向けられるのである。「女性にも非があったのではないか」「売名目的ではないか」「女性だっ...」、挙げればきりが無い。そして、批判は声をあげた女性だけでなく、#MeToo運動にも寄せられた。「魔女狩り」のよう、被害者の声ばかりが大きい「女性との仕事がいよいよなくなった、女性部下に指導がでなくなってきた」「SNSじゃなくて、会社や警察に訴えるべきだ」などが代表的なものであろう。一方で、「声をあげることが賞賛され、声をあげられないことを責められている気がする」、「運動が女性中心になっており男性や性的マイノリティの被害が取りこぼされている」、といった批判もあげられていた。

#MeToo 運動が残したものと

#MeToo運動は、「セクハラは決して許されない行為である」というメッセージを強烈なインパクトを持って伝えた。それは、同じ経験をした女性たちへのエンパワメントにもなった。しかし、運動は



特集 #MeToo

#MeTooムーブメントは、SNSから広がったこともあって、どんな運動なのか、よくわからないことも多いようです。経緯や具体的な動きを知り、考えるきっかけになればと思います。

いつか収束していくものである。この運動が伝えたメッセージをしっかりとこの後の社会の変化につなげることが大切ではないだろうか。

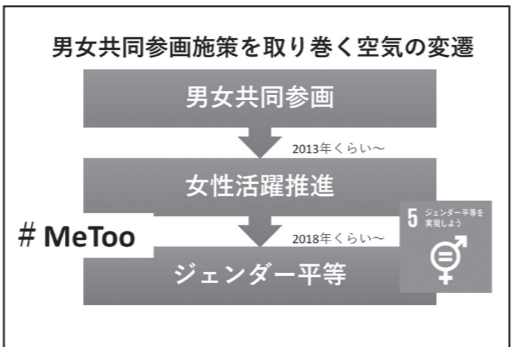
2018年のノーベル平和賞は、コンゴの紛争でレイプに被害に遭った女性たちの治療や社会復帰を支援している医師のデニ・ムクウエゲさん、そしてI-S-I-Lからの性暴力を証言したナディア・ムラドさんの二人が受賞した。ノーベル賞委員会のレイスアンデルセン委員長は記者会見で、今回の受賞者と#MeTooの関連を認めている。

2018年に開催されたG20ブエノスアイレスで出された首脳宣言の2段落目には「仕事の未来、開発のためのインフラ、持続可能な食料の未来、そしてG20のアジェンダ全体としてジェンダーを主流化する戦略である」と書かれている。つまり、「全ての分野」を女性視点で見直すことが共同宣言の冒頭に記されており、それが各国首脳が合意した「戦略」とされているのである。さらに「女性と女兒に対するあらゆる形態の差別及びジェンダーに基づく暴力を終わらせることを目的としたイニシアティブを推進する」とあり、2019年行われたG20大阪サミット、G7ピアリッツサミットにおいても女性に対する暴力が強調されている。さらに今年6月に採択されたILOのハラスメント禁止条約も#MeToo運動

の後押ししたと言われており、日本が批准するかどうかが目されている。以上のように、経済を持続させるには女性に対する暴力をなくすことが不可欠だということが国際社会では常識になりつつあり、

その背景として#MeTooは大きな影響を与えたことが読み取れる。

日本への影響も見てみよう。安倍内閣は毎年6月に「女性活躍加速化のための重点方針」を決定し、あらゆる分野における女性の参画拡大・人材育成や働き方改革の必要性を掲げてきた。前述した財務事務次官辞職の後のタイミングであった2018年の方針は、大変特徴的である。「はじめに」の部分には、「経済社会生活の様々な領域においていわゆる『男社会』が根深く残っている。女性活躍以前、の課題が残されており、女性活躍を推進させるには、こうした残された課題の解消に今まさに取り組むべきである」とあり、具体的に賃金格差や一人親女性が抱える課題や、セクシュアル・ハラスメントなどの女性に対する暴力などが挙げられている。#MeTooからの国際社会の変化が、間接的に日本の女性活躍推進施策にも影響を与えたとと言えるのではないだろうか。



である。人権や福祉の問題だったのが、経済や地域振興の問題になっていった。一緒に働く人たちが女性や子どもたちだけだったのが、男性や経済団体も加わってきた。しかし、ここ1、2年はまた新たな変化を感じている。「ジェンダー平等」への変化である。この変化の大きな要因が、「SDGs」や「MeToo」だと考えている。#MeTooが与えた影響は大きかった。しかし、#MeTooだけはこの強固な男性中心社会が簡単に

変わるわけではない。声をあげられる人が声をあげられるタイミングで声をあげ、声をあげた人を支える繋がりを足元に作っていく活動を粘り強く継続していきたい。私自身は、友人たちと「MeToo」さっぱり実行委員会」を立ち上げ、学びの場を設ける活動を行なっている。社会を変えるための「運動」とともに、一人ひとりが気づくための「学習」、個別の経験に対応するための「支援」など、多様なアプローチが札幌でもっとも当たり前になる未来を見たい。

菅原亜都子(すがわらあつこ)
学生の頃に「ジェンダー」に出会い、母親や友達との抱える問題が彼女たち個人の問題ではなく社会的に作られたことを知る。男女共同参画センター職員。

#MeToo 今から
私は男女共同参画を推進する公共施設の職員をしているが、働き始めた2000年代前半からの約10年間と、2012年以降とで、男女共同参画を巡る空気が一変したと感じる。一言で言ってしまうと、「男女共同参画が女性活躍に取って代わった」という感覚

特集

他人ごとから「自分ごと」に

詩織さんの事件から見えたもの

長谷川綾

■北海道とのつながり

ジャーナリストの伊藤詩織さんと初めて言葉を交わしたのは、2017年12月15日、東京の専修大学で開かれた言論の自由をテーマにした集会の後だ。私が北海道新聞の記者であるとして自己紹介すると、彼女はこう言った。「北海道、大好きなんです。父が北海道出身なので、小さい頃はよく遊びにいきました」。「夕張には、取材で何度も通っています。『夕張のお母さん』と呼ぶ方もいるんですよ」

絶句した。詩織さんの事件を知った当初は、本当だとすれば、あまりに露骨な権力の介入の仕方に「まるで小説か映画みたいだ」と、どこか遠い国の話のように感じていた。北海道にルーツがあり、夕張を取材するジャーナリストの事件を、他人ごとのように捉えていたことを、北海道に根ざす新聞記者として恥じた。

詩織さんは今、英国を拠点に活動し、夕張を取り上げたドキュメンタリー映画を自主製作中だ。今年6月、詩織さんは情報サイト「イミダス」で始めた連載の第1回で、取材のきつ

かけを明かした。4年前の6月、滞在先のベルリンで国際電話を受け、準強姦容疑で刑事告訴した山口敬之元TBSワシントン支局長の逮捕が直前になって警視庁トップの指示で取りやめになった、と捜査員から知らされ愕然とした、と。

「当局、司法、正義、これから何を信じていけばいいのだろう。確実だったのは、日本に帰ったら、私が当時勤務していたライター通信の隣にあるTBSでその人は働いているということだ。この業界で働けなくなるなんてことでは済まないかもしれない。その日から、私にとつて東京は安心できる場所ではなくなってしまった」

「ジャーナリストになるといって夢を諦めるのか、それとも、たとえ真実を追う仕事に背くことになっても、夢を叶えるために事実を『なかったこと』にするのか」

だが、詩織さんは、事実を「なかったこと」にしなかった。捜査の過程を取材し、手記『Back Box』（文藝春秋）を出し、世に問うた。日本のメディアの就職を諦める代わりに、海

外メディアにドキュメンタリーの企画を提案。「孤独死」のテーマが採用された。その延長で、海外でも関心を持ってもらえそうな「超高齢化社会」の現場として、夕張の取材を始めた、という。

■真つ向から対立する主張

事件の経緯はこうだ。第一報を報じた週刊新潮17年5月18日号やその後の報道によると、詩織さんは15年4月3日、山口さんに就職の相談にのるといわれて食事をした後に意識を失い、性的暴行を受けたとして、準強姦容疑で高輪署に被害届を出した。裁判所から逮捕状も出たが15年6月8日、成田空港で山口さんの帰国を待ち構えていた捜査員に、逮捕状の執行を取りやめる、との命が下った。菅義偉官房長官の秘書官を務めた中村格警視庁刑事部長は週刊新潮の取材に対し、「私が決裁した」と認めている。

山口さんは15年8月に準強姦容疑で書類送検されたが、東京地検は16年7月、「嫌疑不十分」で不起訴と判断。17年5月、詩織さんが検察審査会に不服を申し立てたものの、同年9月、検察審査会も「不起訴相当」の議決を出した。詩織さんはこの月、山口さんを相手取り、慰謝料など1100万円の損害賠償を

出身の父親が、どんな思いで性暴力被害を訴える娘の法廷に足を運んだのか。記事を読んだ胸が痛んだ。

事件と直接関係ない、詩織さんの北海道とのつながりを縷々記したのは、読者のみなさんに事件を「自分ごと」に感じてほしいと思っただからだ。他人ごとから「自分ごと」になる、これがMeTooムーブメントの核心だ、と私自身、彼女との出会いで実感した。詩織さんが訴え出した約1年後、昨年4月12日発売の週刊新潮4月19日号で、財務事務次官のテレビ朝日記者へのセクハラも発覚。欧米や韓国より鈍いといわれた日本のMeTooも緒に就いたように見える。だが、激しいバッシングもあり、詩織さんは今も海外を拠点にせざるをえないでいる。日本は果たして彼女が安心して働ける社会になるのか。その一端を占う注目の判決は、12月8日に出る。



集会でスピーチする詩織さん（2017年12月15日、専修大学にて）

求める訴訟を東京地裁で起こした。山口さんも今年2月、営業損失など1億3000万円の損害賠償を求めて反訴。この裁判も併合した東京地裁での口頭弁論で7月8日、本人尋問が行われ、詩織さんは『やめて』と言って抵抗した」と証言。山口さんは「法に触れる行為は絶対にしていない」と反論した。双方の主張は真つ向から対立したまま10月7日に結審した。

気になるのは、17年5月10日発売の週刊新潮への後追い報道の動きの鈍さだ。記事デー

タベースをみると、新聞で最初に伝えたのは5月13日の産経新聞。花田紀凱・月刊Esquire編集長コラムが、新潮の記事を紹介しながら山口さんを擁護した。各社が報じ始めたのは5月29日に詩織さんが検察審査会に不服を申し立てて記者会見した後だ。朝日新聞は少し遅れ6月3日、国会で逮捕状の執行停止が問題視された際に報道。北海道新聞は5カ月近く経った10月14日、詩織さんの手記出版を伝える共同通信の配信記事で初めて事件にふれた。

不起訴になった事件を伝えるのは確かに難しいし、山口さんはフェイスブックで「法に触れることは一切していない」と弁明していた。しかし、山口さんは安倍晋三首相と親しいことで知られ、警視庁幹部は逮捕に「待った」をかけた、と認めている。最高権力者に近い人物の事件のみ消しが疑われる事案である。実際、英BBC、米紙ニューヨークタイムズなど海外では大きく報じられた。

■#MeTooの核心

詩織さんは結審で意見陳述する際、傍聴席の一番後ろに初めて父親の姿を見つけた、と涙ぐみながら集会で報告した、とニュースサイト「バスフィード」は伝えている。北海道

長谷川綾（はせがわあや）
東京出身。京大経済学部卒。
1997年、北海道新聞に入社し、
根室、小樽、東京などを経て現
在編集本部。共著に『歴史を社
会に活かす』（東大出版会）。

いつだって No Nuke !

北海道のエネルギーの未来を考える
10,000人の会

特集

フラワーデモ — 思いを花に託して —

カステル

今年3月、実父による娘への性暴力を含む、4件の性暴力事件が相次いで無罪となりました (<https://www.flowerdemo.org/blank>)。この一連のあまりに理不尽な判決に、著述家北原みのりさん「フェミ専門誌「エトセトラ」を発行する松尾亜紀子さん、漫画家の田房永子さんが呼びかけて始まったのが「フラワーデモ」です。4月11日、東京と大阪の公園に、いてもたってもいられない思いで450人もの人々が集まりました。

◎札幌のフラワーデモ

私がフラワーデモを知ったのは、5月11日の報道でしたが、その後、同月25日に、たまたま日本軍「慰安婦」問題の解決をめざす北海道の会主催の北原みのりさんの講演会に参加する機会がありました。

無罪判決が出たのは3月。北原みのりさんたちは、この数か月、裁判に寄り添い、共に傷つき共に泣き、抗議の声



花を持って集まるのは、性暴力被害者の痛みによりそう韓国の運動が発端となっていました。社会を変えようとする力をつむ韓国のフェミニズム。一方、日本はというと、被害者へのあまりにも冷たい視線、もの言う女性への激しい侮蔑、根強い差別。北

をあげてくれている。それなのに私は何も知らなくて何もしていない。札幌でフラワーデモが行われている、その事実を救われる人が必ずいるはず…。

次の開催日までわずか十数日でしたが、趣旨に賛同してくれた皆さんと一緒に6月11日に札幌で初めてフラワーデモを開催することができました。

花や花柄の洋服、小物を身につけた、様々な年代の50人近い人たちが集まり、自分の経験や社会のあり方、性暴力撲滅への思いをそれぞれの言葉で語りました。

原さんたちが呼びかけた、日本での「ウイズユー」のありかたを真摯に考えたい、そのために「ウイズユー」の思いを花に託す、という気持ちで、フラワーデモにはあります。

性犯罪の被害者を見捨てることのないような社会を求めて、フラワーデモは今も続いています。いつまで続けるかは未知数ですが、当面、2020年3月までは毎月行われます。ただ、北海道は冬は外では難しく、どんな場所で行ったらよいか、今運営委員で検討中です。今後のフラワーデモの開催場所、時間については公式サイトとツイッターをご覧ください。 (<https://www.flowerdemo.org/>) (<https://twitter.com/flowerdemo>)

※刑法改正署名について

これ以上被害者を踏みこむという判決があることのないよう、刑法改正を求める署名が、性暴力被害当事者の山本潤さんが主催されている(社)Spring (<http://spring-voice.org/>) など3団体の呼びかけで行われています。私もこの趣旨に賛同し、フラワーデモでも紹介させていただきました。ご協力いただいたみなさまに感謝とお礼を申し上げます。みなさん一人一人の思いがこもった署名を手に刑法改正を国に働きかけます。なお、署名は現在も続いています。インターネットからでもできますので、ぜひ一度ご覧下さい。 (<https://www.change.org/> 法務大臣へ、性犯罪における刑法改正を求めまわ)

特集

なぜスタンディングなのか考えてみた

井上敦子

左のフライヤーは二〇一七年六月八日、山口敬之氏による伊藤詩織さん準強姦事件が不起訴になったことに抗議して二〇数人で札幌駅西口紀伊国屋書店前に立った時のものです。二つ折りで、開くと詳しい経過などが書かれています。



#Me Too、#With You の声を白昼堂々街中に解き放ちたいからでもあります。でも、そのスタイルについては工夫が必要ですね。どうしたら道行く人に心をひらいてもらえるか

真ん中のは今年六月十一日午後六時から紀伊国屋書店で行ったフラワースタンディング(大通り公園でのフラワーデモと連携しながら、時間をずらして行いました)で配布したカードです。仲間が描いた花の絵に一枚一枚色を塗ったものを、二〇分ほどで一六〇枚手渡しました。小さな試行錯誤です。

井上敦子 (いのうえあつこ)

二〇一七年、仲間と「女も男も共に生きる社会をめざす会」をスタート。会では学習会、行

詩織さんの事件を知っていますか？



あったことを、無かったことにはできない

私たちは、準強姦事件の不起訴に対し不服申し立てをした詩織さんを応援し逮捕状が執行されなかった経緯を明らかにすることを求めます

この「詩織さんをひとりにさせない」ためのスタンディングが「女も男も共に生きる社会をめざす会」が行った初めての街頭行動でした。

その後、福田事務次官の女性記者に対するセクハラと麻生財務大臣の発言に対するスタンディング(写真)など、何度か街角に立つ

特集

私がMeToo運動に感じる違和感

沢田 祐季

経験した人も多いと思いますが、私も中学3年生ごろから性犯罪（痴漢やセクハラ）やストーカーなどの被害を経験してきました。学校の先生や警察などにも相談をしてきましたが、相談をした大人は被害として取りあってくれず、ときにはセカンドレイプともれるような言動もありました。当時の私は、周囲の対応に不満を持ちましたが、他に訴えることが出来る人もわからなかったし、自分一人で声を上げる場所もツールもありませんでした。MeTooは2017年に個人が自ら声を上げるツールとして広がった運動でした。

では、MeTooで私が受けた被害は解決するでしょうか。SNSで被害を広めることは私の救いになったのでしょうか。MeToo運動が、セクハラなどを社会で見直すきっかけの一つになったことは感じていますが、私はこの運動に少し違和感を持っています。その違和感をうまく言葉にはできませんが、3つの点がその根っこにあるような気がします。一つ目は名称です。社会運動などが活発でない日本では、「運動」という言葉には「特

殊な人々がする、特殊な事」という印象があります。大学やバイト先でよく感じますが、最近では声を上げること自体に違和感を持ち、否定的にとらえ、それをたたく人たちがいます。MeTooへの参加は、自分が「特殊な人々」にくくられてしまうように感じられ、ハードルがとても高いものです。

二つ目は、有効性に対する疑問です。MeTooは、セクハラなどの加害者であることがダメージとなる著名人たちに対して、黙殺されない程度に知名度がある人たちが行う場合、行為の見直しにつながるかもしれません。実際、MeTooの多くはそのようなものです。しかし、一個人がSNSで被害を発信することは意味があるでしょうか。加害者を実名で告発すれば、被害者も特定されます。告発側が名誉棄損や侮辱罪などに問われる可能性もあります。会社などでの被害を告発すると仕事を辞めなければならなくなるかもしれません。実名が出れば再就職などにも響いてくるかもしれません。MeToo運動は加害者が著名人だから成り立つ活動で、日常の

様々な場面で被害にあっている多くの人たちがそれで救済されるように思えません。三つ目は、本来、性犯罪やセクハラは法律や公的な支援で対処すべきものだということです。MeToo運動が話題性を持った背景は理解できます。しかし、社会を変えるために個人の被害体験を使い捨てていくことは良い事でしょうか？ 発信しないと被害者が可視化されず守られない社会で、発信しないと社会の価値観が変わらないのなら、発信するしかないのでしょうか。しかし、それならまずは発信する人の権利を保護するシステムを作らなければなりません。被害者が被害の発信をすることで不利益を被るような状態を重ねるだけになってしまふからです。

沢田 祐季（さわだ ゆうき）
北海学園大学法学部4年生。虐待サバイバー。現在はNPOで子どもの学習支援をしています。卒業論文では若者の居場所と性風俗産業の関係について分析。

東ティモール マウペシ珈琲
オーガニックカフェやショップで販売中
フェアトレードの美味しいコーヒー!!
NPO 法人 ほっかいどうピーストレード
TEL 070-5619-3222
hokkaidopeacetrade@gmail.com

特集

私とMeToo

世間のジェンダー役割意識の強さにうんざりしている。育休を取ったときのことだ。近所の年配の女性から「へえ」と（文字では伝えづらいが）明らかに変人を見る視線を向けられた。子どもを連れて買い物していると、見知らぬ女性から「偉いわねえ」と声をかけられたこともある。善意だし褒められているのわかる。変人扱いされるよりはまし。でも何か違うと思った。

乳幼児健診の問診票に「育児の主な相談相手は誰ですか?」という質問があり、選択肢に「夫・両親・兄弟姉妹・友人・親類・医師・保健師・他」とあった。「妻」という選択肢はない。「他」に丸を付け、横に「妻」と書くしかなかった(注:その後、選択肢の「夫」は「配偶者」に変更された。当日渡された歯磨き指導の紙には「お母さんがつくる子どもの歯」という大きな見出しがついていた。

家事代行業者から自宅に電話が来たことがある。「奥さまはいらっしゃいますか」と聞かれたので「いません」と答えると電話を切られた。当時、家事の大部分は私がやっており、この業者が話をすべき相手は私であったはず

三浦直登

なのだが。保育園では遠足の前日に「お弁当はお母さんの手作りです」という紙が貼られていた。「ほらほら『お母さんの』って書いてあるから作ってよ」というのは、子どもたちが「親父の味」で育っている我が家では通じない冗談だ。小学校のPTAでは、明らかに父親らしき人が複数いるのに、「お母さん方」と呼びかけられる。この手のエピソードはたくさんありすぎて紹介しきれない。

居心地の悪さを感じる典型的な場面は宴会での料理の取り分けだ。基本的には食べたい人が自分で取ればいいし、料理が席から遠ければ近くの人に頼めばよいと思っている。しかしその場に気心の知れていない女性がいるとそうはいかない。「女性が取り分けるのが当然」のような雰囲気させないようにならなければならない。取り分けをすることになる。会議後の湯飲みの片づけも似たような理由で率先してやるようにしている。そういうとき、申し訳なさそうにする女性も多いのだが、逆にこちらが申し訳なくなる。

女性の多くは、「制裁」を伴うさらに

強力なジェンダー役割圧力下で生活している。男性の私がこういうことを書くことはためらいもあった。しかし、目にすることの少ない話題だと思っし、ジェンダーフリーに行動しようとするときに男性の側が感じる違和感を多くの男性が「私も」と声を上げれば、少しは性差別をなくすことに寄与できるのかもしれないと思っす。

実は、「私のMeToo」という題での原稿依頼を受けたときに、私はMeToo運動に直接関わっているわけではないのでお断りしようと思った。また、MeToo運動は性暴力など深刻な問題の告発が中心であることを考えると私の体験はあまりにも軽い。しかし、編集の方から「性差別に関わることは広い意味でMeToo運動にも関わることだから」と言われ、自分の体験を中心に書いてみることにした。

三浦直登（みづら なおと）
1962年1月生まれ。高校理科教員。

生活クラブは、
ちょっと変わった
生協です♪
モットーは
「おいしくてカラダによくて
自然を壊さない」です
生活クラブ北海道

北海道平和運動
フォーラム
代表 江本 秀春
代表 清末 愛紗
代表 長田 秀樹
札幌市中央区北4条西12丁目
TEL.011-231-4157
FAX.011-261-2759
http://peace-forum.org/

参加
報告サケ漁はアイヌ民族の基本的な権利である
—紋別カムイチェップノミに参加して

小泉雅弘

行われたカムイチェップノミでは、無事捕れたサケを祭壇に捧げることができた。儀式終了後のメディアのインタビューに島山さんはこう応えている。「これは先住権を求めるためのひとつの闘いです」。

9月1日の早朝、私たちは紋別市の元紋別を流れる藻別川の河口近くに集まっていた。この日、この場所で行われるカムイチェップノミ(新しいサケを迎えるアイヌの伝統儀式)で捧げるサケを、紋別アイヌ協会会長の島山敏さんらが捕ることになっていたためだ。前日のカムイノミイチャルパ(先祖供養の儀式)から参加していたアイヌのエカシ(長老)や協力者10人程と、サケを捕る瞬間をカメラに収めようと待機していた大勢のメディア関係者らが見守る中、島山さんら2名が丸木舟に乗り込み、前日に仕掛けておいた網を手繰り寄せ、網にかかったサケやマスを一尾ずつ捕っていた。

しばらくすると、付近で待機していた道オホーツク振興局の職員2名が駆けつけてきた。一人は黙ってスマホで動画を取り続ける。もう一人は、河岸から島山さんに向けて繰り返し叫ぶ。「島山さん、できませんよ、違法です。」近くで見守っていたアイヌのエカシ(長老)がたまりかねて職員に言う。「何が違法だ、

盗人猛々しいとはこのことだ」。

紋別アイヌ協会では、特別採捕許可の申請をすることなくサケの捕獲を試みていた。現在の日本の法律では河川でのサケ漁は禁止されており、アイヌの儀式で使用するサケについては、毎回、道知事に許可を求める申請をすることで決められた尾数のみ採捕が許されていた。しかし、先住権の回復を求める島山さんら紋別アイヌ協会では、「サケ漁はアイヌ民族の権利」と許可申請をせずにサケを捕ることを公言していた。昨年のカムイチェップノミの際には、警察の監視があり、網をかける前に漁を阻止され、サケを捕ることができなかった。今年、無事にサケを捕ることができたのか、どういう事態が生じるのか、私たち周囲の人間も気にながらぬ儀式への参加であった。

今回、警察は現場には現れず、「違法です」とオウムのように繰り返す道職員が脇に立つ中、60匹のサケ・マスが網から外されて丸木舟に揚げられ、岸に運び上げられた。その後

「アイヌはアキアジのことをシペル主食と考えていたのです。日本人は文字の読めないアイヌ民族に、一方的に『法律』なるものを押しつけて、主食を捕る権利さえ奪ってしまったのです。アイヌ民族が死に絶えることなく生き続けてくれた理由の一つは、食糧を十分に手に入れることができたからであります。アイヌの主食はサケと鹿肉で、特にサケの場合は保存用に大量に必要な場合は産卵後のものを捕り、自然の摂理に従って捕獲し生活していたのです。家族が食べる分だけのサケを毎



丸木舟でサケ漁に挑む島山さん(左)ら
(2019年9月1日、藻別川河口付近にて)

日捕ったからといってもサケが減るものではないことを、アイヌ自身は知っていたのです。その頃サケが減ったのは、日本人の乱獲が原因でした。日本人がつくったサケの禁漁という法律は、サケを主食として生活してきたアイヌにとっては、『死ね』というような法律であったわけですね。『歴史を担って未来に向かう世界先住民族会議記録集』より引用)

萱野さんの父親が警察に連行されたのは1937年のことであり、この話を聞けば皆ひどい話と思うであろうが、島山さんの行動は、21世紀の現在においても「アイヌがサケを捕れば密漁」とされる状況が何一つ変わっていないことを白日の下に晒した。実際、島山さんらのサケ捕獲を現場で見ていた(そして証拠用にしっかりと動画撮影をしていた)道職員はその日のうちに警察に告発をしており、この儀式のために全国から集まった参加者やメディア関係者が帰るとすぐに警察が自宅捜索に入り、漁網などの道具は押収され、島山さんら関係者は警察で長時間の事情聴取を受けている。

政府は、来年の東京オリンピック開催に合わせるかのように今年5月にはアイヌに関する新たな法律(アイヌ施策推進法)を成立させ

アイヌ民族にとってサケはカムイチェップ(神の魚)ないしシペ(本当の食べ物)主食と呼ばれる最も重要な食糧であり、交易品でもあった。アイヌのコタン(集落)の多くはサケの産卵する河川沿いに形成されており、アイヌはサケとともに生きてきた民族といっても過言ではないだろう。しかし、明治になると、この地は一方的に日本の領土とされるとともに、政府は河川におけるサケ漁を法律や規則で禁止してしまふ。現在も同じ理由だが、産業資源としてのサケを守るためである。以降、アイヌは生活の糧としてのサケを捕ることができない状況に追いやられてしまふ。

萱野茂さん(故人)は、川でサケを捕って子どもや近所のお年寄りに食べさせていた父親が、ある日突然家に入り込んできた日本人巡査によって密漁のかどで連れ去られてしまふ、子どもながらに泣きながら追いかけた様子を生前に語っている。萱野さんはこう述べている。

せ、来年4月には白老に民族共生象徴空間(ウポポイ)をオープンさせる。しかし、島山さんのようにアイヌ民族の先住権(主食たるサケを捕る権利はその最たるものである)を求めるアイヌの声は、これらの政策には何一つ反映されていない。島山さんら紋別アイヌ協会では今から10年前、政府が新たなアイヌ政策のあり方を検討する有識者懇談会を設置した頃から、政府や道に対してアイヌ民族の漁業権の回復や藻別川のサケ・マス資源管理権について要請をしている。そして、道知事も政府の内閣官房も、本人には要望を聞き入れられないようなニュアンスを伝えていたのだが、実際のところアイヌの権利を侵害する制度は何一つ変わっていない。「あなたたちの言うことは信用できない」と島山さんが言い放つのもこうした経緯に基づいている。

島山さんら紋別アイヌ協会の勇気ある行動を無駄にしないために、北海道で暮らす私たち、日本という国に生きる私たちにはその差別的な制度を変えるために力を注ぐ責任がある。明治以来継続している植民地主義的な法や制度を変えていかない限り、本来の意味での「民族共生」など決して実現しないのだから。

小泉雅弘(こいずみまさひろ)

さっぽろ自由学校「遊」事務局長。アイヌ政
策検討市民会議運営委員。

札幌市民が支える国際芸術活動

丸山博

アイヌ／アマレヤ公演「100年前の衝撃が今、蘇る。ポーランドと日本の架け橋」は、9月28日に札幌のコンカリーニヨで2回、10月5、6日に東京北区のシアターで2回、合計4回上演され、全日程を終了した。制作にかかわった者としては、アマレヤとの交渉に始まり、出演者や場所の確保、チラシの作成、チケットの販売などにまつわる不安や緊張のすべてが美しい舞台と満員の客席を見て喜びに変わったもの、2年間エネルギーを注いでようやくできたものがわずかに4回の公演で終わってしまったという寂しさに、今、襲われている。

演出、振付はアマレヤ劇団の芸術監督カタルジーナ・パスツジャック、出演者はアマレヤからはカタルジーナをはじめ、アレキ



サンドラ・スリヴィンスカ、ナタリア・チリンスカの3名、メノコモシモシ（アイヌ女性会議）からは榎木貴美子、加賀谷京子、松平亜美、斎藤芳子の4名の合計7名。公演はナタリアの口の中にある赤い糸玉の端を貴美子が引っ張り、それぞれ自分の島にいる京子、芳子、亜美を結んでいくという、シーンから始まる。それはあたかもポーランドの民俗学者ブロニスワフ・ピウスツキが妻の樺太アイヌのチユフサンマと二人の間に生まれた助造とキヨラ3人との絆を再生しているかのように見える。次に貴美子が石狩場所で強制労働させられたアイヌの夫を思つて詠んだアイヌの妻の詩に自分で曲をつけて歌い、カタルジ

ナ、アレキサンドラ、ナタリアがその悲しみや熱望を身体で表現する。その後、舞台では、樺太アイヌの強制移住の歴史が貴美子によって語られ、アイデンティティや文化は自分自身の中にあること、アイヌは博物館の中ではなく、実際に存在していることが亜美や京子の口から語られ、ナタリアの哀愁に満ちたポーランドの古い歌がそれに共鳴して舞台をやさしく包む：

アマレヤとメノコモシモシとの共演は2017年11月に遡る。両者は2018年10月に札幌の東本願寺会館で5日間のワークショップを行い、「アイヌモシリ」をサップロピリカコタンで実験的に上演した。今年は新作「100年前の衝撃が今、蘇る。ポーランドと日本の架け橋」に挑み、札幌で190名の観客を集めた。その間、メノコモシモシの多原良子、光野智子に加えて、小泉雅弘、木野哲也、羊屋白玉、斉藤千鶴、田中真澄、清水麻琴、吉村卓也、ジェフ・ゲーマンらアイヌ／アマレヤ公演の実行委員が市民運動的にかかわり、共同通信、朝日、毎日、北海道の新聞各紙が関心を示して報道してくれた。この場を借りて感謝申し上げたい。

丸山博（まるやまひろし）
アイヌ／アマレヤ公演共同制作者

明日はつんどく屋で買ってほしい・・・



『ザ・ソウル・オブくず屋』
SDGsを実現する仕事
東龍夫著（コモンズ、A5判
201頁、1700円＋税）

「ゆうひろば」の読者のみなさん、こんにちは。誌面でおなじみの「ひがしさんのポロポロ日記」を元に、新しい本ができ上がりました！その名も『ザ・ソウル・オブくず屋』SDGsを実現する仕事』（東龍夫著、コモンズ）。

「本にできたらいいですよねー」「もう少し詳しく書くのはどうですか」などとお声掛けしてから、足かけ4年位かかってしまいました。ふだん東京にいる私が、東さんと会えるのは年に1回位。忙しい東さんはある時は早起きして原稿を書いて送ってくれ、しかしせっかくなかっただけで、ぼつりぼつりと超スローモードのメールのやりとりを続けさせていた

できました。

ボロポロ日記は2003年から十数年分あり、他にも面白いエピソードが沢山ありますが、この本に掲載したのはその中からかなり絞った23テーマについて。東さんの思いはもちろん、資料やデータ、新たな経験なども加えて書き下ろしていただきました。原稿を寄せていくうちに、個人のエッセイに留まらない、地球の「未来」のための暮らしかた、地域で障がいのある人もない人も「共に生きる」ための働きかたなど、提言ともいえるべき深みのある、それでいて高みから声高に言うのではない、東さんから「孫たち」世代に向けてメッセージを届けるような本になった気がします。

わたしが言うのも手前味噌ですが、重すぎず軽すぎない、そして地に足をつけながら、目の前には見えない世界や未来にまで目を凝らす東さんの視線や、自ら折んだ再生資源事業への「誇り」を含んだ実践哲学が醸し出してくるような本ではないかと思えます。

「くず屋」という職業は世界中で、底も底、究極の最底辺の仕事ということになるのでしょうか。」そう言いながら、持続可能な未来に向けて、地域循環型社会でくず屋の果たす役

割を語り、遠くブラジルで見たアルミニウムの精錬工場やアジアの縫製工場を思い、原発事故後の福島で暮らし続ける友を訪ねる東さん。

くず屋のソウルは、共同保育で仲間と子育てをする経験や、額に汗して身体（からだ）を使って働く生業（なりわい）のなかで、粘りよく静かに鍛えられたようです。

自分は缶入り飲料は口にしない。けれど、労をねぎらって頂いた缶ジュースはありがたく受けとって人にあげ、「サラッと受け流すことにしている」という東さん。

「ところで、あなたはどんなふうになんて生きていくの？」とは、ひと言も書いていないのに、自分を振り返らずにはいられない1冊。ぜひ買って、あるいは図書館にリクエストして買ってもらうって、読んでください！そして感想を寄せてください。

花崎晶（はなざきしょう）

編集業、女性相談員をしながら、東京都八王子で「まなび・つなぐ広場」という市民の学習グループを主宰。子どもの頃、東さんの車の後部ガラスを誤って割ってしまったのが苦い思い出。

北海道における夜間中学の今

工藤慶一

2016年12月成立した「教育機会確保法」(以下「確保法」と略)により、年齢・国籍その他の事情を問わず、全ての人の義務教育を受ける権利と国・地方自治体の責務が明確になりました。札幌市では2017年の2月、私たちが札幌市議会に提出した「公立夜間中学のすみやかな設置を求める陳情」が文教委員会において全会一致で可決され、同月の本会議でも採択。しかし、札幌市としての設置宣言がないまま2年が経過。

2017年3月「確保法」第7条にある基本指針が文部科学大臣より定められ、各県に少なくとも1校の公立夜間中学を設置(2019年6月には各政令指定都市にも)すること、また義務教育にとって重要な学びの場となっている自主夜間中学への地方公共団体からの適切な措置が求められました。同年11月には「確保法」第15条にある「夜間中学等に関する協議会」の第1回目が道庁で開催され、第2回は2018年3月に、第3回は同年7月に実施されました。この第3回に私たちは「公立夜間中学のあり方」という提言書を提出しました。この中で十分な授業時間

数と教員数の確保、学校設備のバリアフリー化や通学の保障等を求めています。最も大切なことは「ともに生きともに学ぶ」という教育の原点とも言える「自主夜間中学の精神」を公立夜間中学も共有されるべきものとし、公立夜間中学と自主夜間中学の交流等を求めていることです。2019年1月の第4回協議会では、「札幌市に公立夜間中学校を設置することがよつやく確認されました。」

2019年2月札幌市議会本会議において、教育長が「札幌市として公立夜間中学校設置に向け前向きに検討する」という重要な答弁(「設置宣言」)を行い、また3月の札幌市長選候補者2名共に公立夜間中学校設置を公約に掲げました。このため市教委学校教育部に専任担当者が置かれ、現在毎月公立夜間中学の内容について、私たちと打合せを行っております。既に札幌遠友塾には何名もの公立夜間中学入学希望者がおり、今後の人生の行く末をはっきりさせるために2021年4月の開校を切に求めています。9月札幌市議会本会議で教育長は「2022年4月開校」と答弁しました。

8月31日京都で基礎教育保障学会研究大会が開かれました。部落民であった山本栄子さんは、読み書き不自由であったが故にとぎすました感性を身に着け、更に夜間中学・定時制高校を卒業し、大学(中退)でも学んで文字を獲得してききましたので、話の終わりに水戸社宣言の暗誦朗読をしてくれた際に、その奥深さと凄みに、私は体が震えてきました。遠友塾で何度同じことがあったらうと振り返り、夜間中学に携わる幸福を感じました。また奈良の春日夜間中学校の学習者である西畑さんは、これから全国を回り、夜間中学の語り部として生きていく決意を述べました。これから夜間中学の学習者の時代が来ると確信しました。

10月3日には思いもかけず第73回北海道新聞文化賞受賞の知らせが入りました。理由は、「社会的弱者に寄り添い、学ぶ楽しさを伝える」というものでした。9月5日には夜間中学の映画「こんばんはII」の上映講演会が開催され157名の方が参加し、全国映画キャンペーンが札幌でスタートしました。夜間中学は社会の宝です。

工藤慶一(くどうけいいち)
1948年旭川生まれ。1990年札幌遠友塾自主夜間中学授業開始。1996-2010年札幌遠友塾代表。2007年「北海道に夜間中学をつくる会」設立。現在、同共同代表。

企画報告

「戦争と平和、写真・資料展」に関わって

さつぽろみどり

戦争中の教科書や戦争に関する写真、新聞などを集めた「写真・資料展」が、「遊」主催で八月にエルプラザでひらかれました。私は、お手伝いで三日間そこにつくことになり、さまざまな年代の人たちと話すという体験をしました。

朝鮮の人たちが一列に荒縄でしばられ、「アイゴ(哀号)」「アイゴー!」と言っていたと小学生の時に見た捕虜の強制労働の様子を涙をためて語ってくれた女性。小学生や中学生の若い人たちも、「戦争はいけない」、「知らなかった沖繩戦のことを学び、知らせていきたい」など、しっかりと意見を伝えてくれました。

当時の戦争に向かわせ鼓舞する内容の教科書やポスターに「ぞつとする」「子どもに間違ったことを教えるのは、罪」など関心を持たれる方も多かったです。

私がまるでアベさんであるかのように、軍事に向かつていくことへの怒りをぶつけてきた方が、年配の方にも若い方にもいて、このぶつけられた怒りに今回の展示の意義を見るように思いました。



「戦争と平和、写真・資料展」より
(2019年8月6日～10日、札幌エルプラザ2階交流広場にて)

二十二歳の伯父が沖繩で、兄がフィリピンで、など身内や親戚が戦死したことを話す方が何人も来られていました。また、学童疎開の話や小学生の頃、畑や工場で働かされた話など貴重な話をじかに聞くことができました。以下は、感想文の抜粋です。

- ・戦争は、絶対にいけない!
- ・一人一人がもっと知ることが大切。
- ・戦争が忘れられていく中で、このような展示は非常に大切。これからも続けて。
- ・僕たちのような戦争を知らない世代は、戦争で起こした過ちを直視すべき。
- ・声をあげ、行動していかなくてはならない。
- ・歴史の教科書は、戦争のことをもっと取り上げるべき。
- ・将来は社会科の教員になるので、物言える主権者を育てていきたい。

展示を見に来られた方々が話してくださいました体験や思いは、現実のこととして強く私に迫ってきました。「自分も何かやっていきたい!」、その気持ちが強くなり心ある女性たちに呼びかけたところ、同じエルプラザで10/27-11/1まで沖繩をテーマにした展示をやるうということになりました。

今回のことに関わって今は、戦争を押し返す一人になりたいと思っています。是非、足をお運びください。

さつぽろみどり
女性たちの会「みらいのとびら」をつくる。
若い人たちへ、ひらがなで思いを伝えるような活動をしていきたいです。

講座
報告

アニマルウェルフェアによる畜産革命を

滝川 康治

物心がついた1960年代、戦後開拓のわが家では、乳牛や農耕馬、鶏、羊と一緒に暮らしていた。少年の家の手伝いは、牛の乳搾りや牧草の収穫、餌やりや糞出し、田植えや稲刈り…と何でもありだ。家畜のことを「経済動物」と呼ぶ人はいなかったように思う。動物たちとの距離が近かった農村生活が変容していくのは、70年代以降のことだ。機械化・多頭化による規模拡大を進め、借金を返すために更なる生産拡大に走る…。農家はそれを悪循環とは気づかず、政府や地方自治体、関係業界は拡大路線を後押ししてきた。

この間、最も犠牲にされたのは家畜たちだろう。動物行動学者の佐藤衆介さんは、日本のアニマルウェルフェア（家畜福祉）の問題点は「拘束」と「濃厚飼料の多給」だと指摘する。北海道でも、庭先養鶏が激減し、ケージ飼育が主流になった。繁殖豚は、狭いストールに閉じ込められ、身動きもままならない。草が主食の乳牛は、ミルク・マシーンとして扱われている。80年代初期の道内の乳牛1頭あたり年間平均乳量は6千6百キログラム程度。それが2015年には9千5百キログラムに急伸し

た。米国産トウモロコシなど濃厚飼料の給与量を増やしたからだ。その結果、第四胃変位や脂肪肝などの生産病が増えている。

近年、犬や猫など伴侶動物のアニマルウェルフェアに対する関心が高まり、関係法令も徐々に改善されてきた。しかし、家畜は犬猫以下の扱いをされ、動物愛護管理法の整備も進まない。生産者やフードチェーン関係者、消費者の認知度は低いのが実態だ。

そんな状況に一石を投じ、「酪農・畜産王国」といわれる北海道から畜産改革を進めたい。こう考える私は5年前、「北海道・農業と動物福祉の研究会」を仲間たちと設立。その後、会を法人化し、認証制度づくりにも参画してきた。

10月26日に開講する「遊」の連続講座に先立ち、欧米で進むアニマルウェルフェアによる「畜産革命」の状況を、松木洋一さん（日本獣生命科学大名誉教授）に講演してもらった。来年2月まで月1回（全5回）の連続講座では、家畜福祉の基礎に始まり、ペットフードの原材料や「食の安全・安心」、放



松木洋一さん講演会「家畜は感受性のある生命存在だ！」
(2019年10月5日、かでる2・7にて)

牧酪農の有利性、消費者から見た課題などを学ぶ。アニマルウェルフェアの関連領域は、放牧や有機畜産、動物と人間との関係、獣医学のあり方、持続可能な開発目標（SDGs）、消費者意識…と幅広い。受講を歓迎します。

滝川 康治（たきかわこうじ）
1954年、下川町生まれ。子ども時代から身近に家畜がいた。農業高校を卒業するが、道を踏み外し、今はフリーのルポライター。家畜福祉の普及活動に取り組み中。

ともなった世界像だ。

もう一つは、民主主義ということ。民主主義とはつまるところ合意形成だ。多様な価値、多様な利害がある中で、「合意」のプロセスが最も大事で、それをもとめて、議会、デモ、ワークショップなど、さまざまなツール（とあって言おう）が開発されてきた。しかし、もう一度原点に戻れば、それは「聞く」ということなみになる。聞き取り調査やそれに類することをした経験のある人なら気づくことだが、「聞く」となみは、相手の経験や感情、思いとこちらの経験や感情、思いが、ぶつかり、融合したりしながら、何かしらの新しい物語、つまりは合意を生みだしていく行為だ。

鶴見良行さんは、「イデオロギーだけでつながらず、ゆっくりと歩いて自分を変えていくのである。歩かない連帯を信用しない」（『ココス島奇譚』）と書いた。それとほぼ同じ意味合いで僕は、「聞かないとなみのない民主主義は信用しない」と言いたい。

宮内泰介（みやうちたいすけ）

一九六一年生まれ。さっぽろ自由学校「遊」共同代表。北海道大学教員（環境社会学）。ソロモン諸島、北海道、宮城などで、環境、生活の調査中。

第七九回 民主主義としての「聞く」

三十年くらいにわたる「研究」生活で、何をやって来たのかなあ、と考えたとき、自信をもって言える、というべきが、確実に言えることは、ずっと「聞く」ことをやってきたということだ。数えただけではないけど、延べ人数で言うと五百人は超えていると思う。

こんなに人の人生を聞く人生になるとは思っても見なかった。それだけ続けてきたのは、ひとえに「聞く」ことのおもしろさであり、聞くことの「手応え」だ。

自身が日々積み重ねるいとなみの中で、何か「手応え」のあるものを一つ挙げると言われれば、それが「聞く」ことなのだ。

正直言って、僕はそんなにいい聞き手ではない。もちろん「聞く」ときの大事な姿勢、つまり、相手の話を否定しないとか、相手の意味世界への想像力を働かせながら聞くとか、そういうことはある程度できていると思うが、でもせつ



かちなので、すぐ相手の話をまとめようとして、なるべく多くの情報を得ようと相手の話に質問をかぶせてしまったりすることも少なくないと思う。

それでもやはり、聞くことには「手応え」がある。聞いた結果何かがわかるとか、聞いたデータをもとに理論を組み立てるとか、政策を打ち立てるとか、そういうことももちろん大事なのだが、しかし、そのことよりもむしろ、「聞く」ということなみ自体の「確かさ」みたいなものこそが最後に残る気がする。

この、聞くことの「確かさ」は、とても多面的で、言葉にしにくいところがあるのだけれど、二つほど理屈を考えたみたい。

一つは、社会理解ということ。「聞く」ということなみは、世界がどうなっている、どうすればよいのか、という僕らの思考に直結している。「聞く」ことは、僕らの世界像を形成し、僕らの未来像をつくりだす。それはゆっくりとした営みだし、きれいに図式化された世界像ではないかもしれないが、しかし、確かさを



そのままに俳句

第21回

世界最短の定型詩と言われる俳句。五・七・五で作られる世界。日常、見たり聞いたり感じたことを、忙しい日々にも忘れてしまいうその一瞬を、十七文字に込めてみました。

秋の葉もアートに変わる筆遊び

アート書道を初めて一年。筆を持つのが楽しくて仕方ない。まだまだ思うように書けないし、すらすらと筆を動かさない。考えたり、真似したり。でも半紙やはがき、短冊などいろいろなものを書くたびに、新しい発見があるから面白い。展示会の作品を制作していた時、葉っぱに書いてある人がいた。少し茶色がかかった秋色の葉っぱ。紙じゃなくてもいいんだ！と、また新しい発見。手のひらくらいの葉に、さらりと筆で文字をアートに描く。枯れてゆく葉っぱも筆で文字を載せることで、立派な芸術作品に変身した。自然の葉は季節によってさまざまな色を持ち、それだけでも美しい。でもちょっと手を加えることで、また違った姿に変身する。

事務局だより



あれほど暑かった夏が過ぎ、秋も深まってきた今日この頃です。紅葉していく木々を見ていると何となく落ち着いた気持ちにもなります。久しぶりに花崎さんの著書「力と理性」の中の「北大・一九六九」「一九六九年秋」「幻の大学の立ち抛」の三論文を読みました。もう50年前になります。当時の状況がいまもと変わらずに伝わってきました。同時に現在においても様々な示唆を与えてくれます。「我々の自己表現としての政治や「政治と学問の統一的な争奪者」「政治と思想と詩」の関係などです。

「失敗しない者にはなにも学ばない。勝負がおこなわれているときに、丁にも半にも賭け金をおかない者は、失うことがないかわりに、得ることもない。」などの文章は、改めてうなずいてしまいました。ボブ・ディランの詩を引用したり、特別弁護人であった時の「最終弁論」の陳述は、ほとんど感動的です。勇気をもらって、この秋と明日からの仕事にもまた励みたいです。(北村公一)



* 「ひがしさんのボロボロ日記」今号は休載しますね！

「10月現在、病気療養中です。こちらは快方に向かってゆっくりですが歩んでいるので、ご心配なく。それとは別に、『ゆうひろば』に連載していた「ボロボロ日記」に加筆訂正した著書が出版されました！是非、読んでみてくださいね。」(東 龍夫)

編集後記

性をめぐる被害は、被害者が二次被害にあうことも多く、なかなか表に出にくかった。でも、MeTooはWithYouでもあるのだから、#MeTooムーブメントが、この壁を超える力になればと思っている。(ほ)



一日のスタートラインに渡り鳥

ばたばたと聞こえたような気がしたので見上げると、空に渡り鳥の群れが綺麗なV字を描いて飛んで行った。どこからどこへ向かうのか、冬を過ごす地を目指して飛んでいるのかな。秋のさわやかな朝。一日の始まりに優雅に飛ぶ渡り鳥の群れは、みごとに綺麗なフォーメーション。そしてとてもすがすがしい。渡り鳥と一緒に、今日一日大きく羽ばたこうかなあと、気持ちも前向きになる。

柚原誓子(ゆはらせいこ)
平日は会社員。休日は心惹かれるままに、趣味のスキー、温泉、旅行を楽しんでいます。数年前から始めた俳句。あらためて日本語の美しさに触れています。

内科・神経内科
**札幌中央
ファミリークリニック**
外来一般診療
月火木金9:00~11:30
札幌市中央区南1条西11丁目
ワンズ南一条ビル6F
TEL. 272-3455

自然食ホロ
札幌市東区中沼西
5条2丁目3-16
TEL: 887-6224
いつも喜んで、
感謝して。
<http://holo.sunnyday.jp/>



さっぽろ自由学校「遊」からのお知らせ

10月下旬以降に新規開講する講座より
(数字は通し参加費、特に記載のないものは愛生館ビル5F 501 会議室にて)

外国人技能実習生から考える人権問題 ー共生編ー

全3回/一般3,000 会員2,400 25歳以下1,200

① 10/25 (金) 18:45 ~ 外国人技能実習生における多文化共生施策の限界と課題

● 森谷康文 (北海道教育大学国際地域学科准教授)

人も動物も満たされて生きる ーアニマルウェルフェアをめぐるー

全5回/一般5,000 会員4,000 25歳以下2,000 於: 愛生館サロン (愛生館ビル6F・南側奥)

① 10/26 (土) 13:30 ~ アニマルウェルフェアって何だろう? ● 滝川康治 (ルポライター、元酪農家)

沖縄ウィーク in 札幌 全7回/一般5,000 25歳以下2,500 於: 愛生館サロン

10/27 (日) ① 13:30 ~ ② 17:00 ~ 沖縄関連映画上映会 ※ 以降、11/1 (金) まで毎日開催

多様性とバイタリティの国、インドを知ろう

全5回/一般5,000 会員4,000 25歳以下2,000 ● 講師 ラトール旅子 (北海道大学非常勤講師)

① 10/29 (火) 18:45 ~ インドの多様性と衣食住

日米安保体制を考える ー「60年安保闘争」から60年

全4回/2,000 ● 講師 北村公一 (元小学校教員)

① 11/12 (火) 1952年行政協定 1960年安保条約 地位協定について

私からはじめる社会変革 ーアドボカシーのいろはを学ぼう

全5回/一般5,000 会員4,000 25歳以下2,000

① 11/13 (水) 18:45 ~ 当事者の声を形にー社会的マイノリティの立場から ● 山崎恵、工藤久美子

身体を自由に動かしましょう ーあなただけのエクササイズ・ナビゲーション・マップ

全5回/一般7,500 会員6,000 (初回のみお試し受講可1,000)

● 講師 朝野裕一 (運動科楽舎代表・理学療法士)

① 11/20 (水) 18:30 ~ 身体を自由に動かすことの意義

ひきこもり問題を考える ー市民としてできること

全3回/一般3,000 会員2,400 当事者・家族・25歳以下1,200

① 1/29 (水) 18:45 ~ 当事者としてひきこもりの支援にかかわって…

● 大橋伸和 (集団型支援拠点「よりどころ」ピアスタッフ)

ゆうひろば

発行: NPO 法人さっぽろ自由学校「遊」

〒060-0061 札幌市中央区南1条西5丁目 愛生館ビル5F 501

・郵便振替口座: 02780-5-47036 (名義: 自由学校「遊」)



・TEL:011-252-6752
・FAX:011-252-6751
・syu@sapporoyu.org
・http://www.sapporoyu.org



オーガニック・自然食品専門店

らる畑

おべんとうとおそうざい

らるごはん

札幌市中央区大通西23丁目

Tel 614-2406 Fax 614-3836

http://rarubatake.com

10時~19時(日~17時・祝~18時)